



あけましておめでとうございます

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。令和5年も、教職員一同、248名の八鹿っ子の健やかな成長をめざして「よろこびが生まれる学校づくり」の実現に向けて全力を尽くしてまいりますので、どうぞよろしく願いたします。



卯の年のはじめに

ぴんと張った空気の中で3学期の始業式を行うことができました。今年も元気な八鹿っ子たちと1年を始められます。本当にうれしいことです。始業式では以下のような話をしました。

□ 「卯」の字は象形文字で“新芽が二つに分かれて地上に出ている様を表す（神戸新聞正平調1月3日）”のだそうです。そう言われてみると、双葉がパッと開いているようにも見えます。自分の新芽をしっかりと育てて、花を咲かせ、実をつけさせる。これからの1年のみんなの成長が楽しみになってくるような字です。



□ 芽は“自分の可能性”と言ってもいいかもしれません。“自分の可能性”とは、できるはずだけれども、まだ発揮できていない自分の力のことです。

□ 今年も日めくりカレンダーを買いました。今年買ったのは「1日1枚で身につく世界の教養」カレンダー。これを毎日1枚読んで、365日たてば、私もかなり賢くなっているはずですよ。

□ 日めくりカレンダー1日分の厚みは、0.1mmくらい。透かせば裏面の文字が見えるくらい薄いものです。けれども、1日1枚カレンダーをめくって、365日分重なると、5cmくらいの厚みになります。一日一日やひとつひとつは小さくても、それが積み重なるとびっくりするくらい大きく分厚くなります。これがみんなが「成長していく仕組み」なのです。



□ 今日、自分の目標に向けて1つがんばること。それがやがて目に見える自分の力となっていきます。今日の「1」は、1年くりかえせば「365」の力になります。ところが今日何もしなかったとしたらどうでしょう。

私の日めくりカレンダーも、めくらなければ私が賢くなることはありません。「0」は365回たしても「0」のままです。大事なことは、たとえ「1」であっても、今日の「1」を積み重ねていくことです。

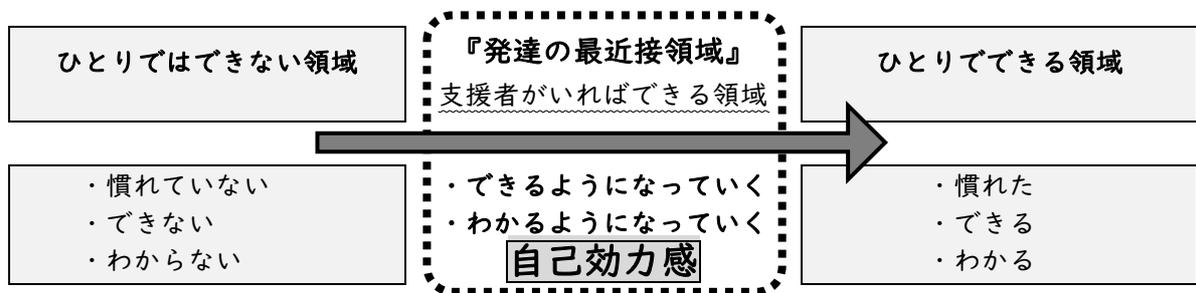
□ 年が明けて「お芽」出たい。出たがってうずうずしているみんなの中の小さな芽を思い切り伸ばして、小さな積み重ねを目に見える力にしていける、そんな1年にしていきたいでしょう。



八鹿っ子は聞く姿勢が良いです

お手伝いで自己効力感を高める

- 各ご家庭においては、冬休みも「そうあんくんお手伝い大作戦」へのご協力をいただき、ありがとうございました。お家の人からの一言欄には「ありがとう」「助かったよ」の言葉がたくさんあり、子どもたちの年末年始の働きぶりが伝わってきました。特に今回は「家族の一員として」「家族といっしょに」という言葉の多さに気づきました。年末年始の忙しい時期、お手伝いを通して深まった家族の絆もあったのではないかと想像します。
- 昨年、東井義雄記念塾講演会（講師：青山学院大学教授 荻宿俊文氏）で、「**発達**の**最近接領域**」についてのお話を聞きました。聞き慣れない言葉ですが、子どもの発達・学習における関係性に着目した理論です。子どもの発達には「ひとりではできない領域」と「ひとりでできる領域」があり、その間に『**支援者がいればできる領域**』がある、という考え方です（下図参照）。この『**支援者がいればできる領域**』（最近接領域）を意図的に設定することで、効率の良い成長が望めると言われています。これは学校、家庭を問わず、様々な場面に当てはまるものです。
- 荻宿氏は「最近接領域」において、「できるようになってきた」「わかるようになってきた」ことを自覚するこそ**自己効力感**につながると述べておられました。



- 考えてみると、家庭におけるお手伝いは、まさに「最近接領域」であると気づきます。そうあんくん新聞の記述からは「お家の人といっしょにたまごやきを作りました」「みがき方と洗ざいの使い方を教えてもらってお風呂そうじをしました」等々、家族の支援によってスキルを身につけていく子どもたちの様子がうかがえます。子どもたちにとっては、家族の支援を受けながらお手伝いをする中で「できるようになってきたぞ」「わかるようになってきたぞ」という実感を持つ機会となっているのではないのでしょうか。この理論は、お手伝いが子どもの発達にとって、とても貴重な体験になることを示唆しています。
- 「最近接領域」の活動を設定するにあたっては、自分一人ではできないことの中から
 - ・できそう、でもできない。
 - ・コツがわかればできそう。
 - ・やり方は問題ないはずなのにできない。に当てはまるものを選択するのが良いとされています。
- お手伝いが生み出す効果は多岐にわたっていることを感じます。ご家庭での取組に感謝申し上げますとともに、引き続き「そうあんくんの日」へのご協力をお願いします。

1月の東井先生の言葉

書いた字にも そうじの跡にも しばったぞうきんにも
仕事の一つ一つにあなたが満ち満ちている
そういう仕事をねばり強くやり続けることのできる人

この東井先生の言葉を受けて、
今月の児童会目標は

ていねいに字を書こう

ていねいにそうじをしよう

です。ていねいさはねばり強さとセットで機能するものです。1年のはじめだからこそ、何事にもていねいさを意識して取り組ませたいものです。